

石川県創造的復興プランについて

能登が示す、ふるさとの未来
Noto, the future of country

令和6年6月

石川県

石川県創造的復興プラン 概要

<プランの構成>

- 序 章 「能登らしさ」
- 第1章 「被災状況」
地震の概要、県内における被害の状況
- 第2章 「創造的復興に向けて」
創造的復興の必要性、スローガン、創造的復興に向けた基本姿勢
- 第3章 「プランの位置づけ、計画期間、対象地域」
プランの位置づけ、期間、対象地域、創造的復興に向けたさまざまな声
- 第4章 「創造的復興に向けた取り組み」
施策体系、創造的復興リーディングプロジェクト、具体的取組（別冊）
- 第5章 「推進体制と進捗管理」
多様な主体との連携・協力、復興財源の確保、進捗管理、検証と後世への伝承
- 別 冊 「施策編」
具体的取組、タイムライン

石川県創造的復興プラン 概要

<プランの位置づけ>

「創造的復興の実現に向けた羅針盤」

県成長戦略に基づく施策の推進を県政運営の基本としつつ、地震からの復興に関する事項は、本プランに基づき推進。

<計画期間>

県成長戦略の目標年次である令和14年度末までの9年間

「短期」(2年後の令和7年度末)

「中期」(5年後の令和10年度末)

「長期」(9年後の令和14年度末)

<創造的復興に向けて>

- ・「地域が考える地域の未来を尊重する」
- ・「あらゆる主体が連携して復興に取り組む」
- ・「若者や現役世代の声を十分に反映する」

など12の基本姿勢に基づき、創造的復興リーディングプロジェクトをはじめとする取り組みを通じて、創造的復興を成し遂げる。

創造的復興のスローガン

創造的復興のスローガン

能登が示す、ふるさとの未来 Noto, the future of country

能登は、人々にとっての特別な地です。私たちが当たり前のものと思ってきた能登の美しい自然、そして歴史が培った文化は、世界にも誇れる未来に継承すべき唯一無二の財産です。また能登は、多くの課題を抱える日本にとっての様々な課題の先進地でもあります。

そんな能登に、年の始まるその日に発生した大震災。この痛みと悲しみを乗り越え、これを未来へと続く新たな始まりとしたい。能登が創造的復興を成し遂げ、自然と文化が真に共生する持続的な地域の姿を示すことは、大切な能登を未来に紡ぐだけでなく、日本、そして世界中のあらゆるふるさとの希望の光となります。

能登が持つ自然や文化の普遍的な価値に新たな価値を融合し、全国そして世界から再び注目を集め、理想とされる能登の未来を創り上げることを目指す、という決意を表しています。

施策の4つの柱

施策の4つの柱

1 教訓を踏まえた災害に強い地域づくり

インフラや施設の早期復旧と強靱化、災害廃棄物の処理促進、復旧事業者や支援者への支援、復旧・復興を通じた関係人口の拡大 など

2 能登の特色ある生業（なりわい）の再建

被災した事業者の早期再建に向けた支援、農林水産業の再建、伝統工芸産業や商店街の再建、観光産業の再建、新たなビジネスの創出 など

3 暮らしとコミュニティの再建

暮らしと住まいの再建、祭りや文化財の再建、文化・スポーツの力の活用、地域公共交通の再建、デジタル活用などスマートな生活の実現 など

4 誰もが安全・安心に暮らし、学ぶことができる環境・地域づくり

医療・福祉・子育て支援体制の充実強化、学びの環境の再建、豊かな自然環境を活かした能登の魅力の向上、被災者・被災地支援の充実、危機管理対応の充実と震災の検証 など

このうち、創造的復興の象徴的プロジェクトを「[創造的復興リーディングプロジェクト](#)」と位置づけ

創造的復興リーディングプロジェクト

(取組 1) 復興プロセスを活かした関係人口の拡大

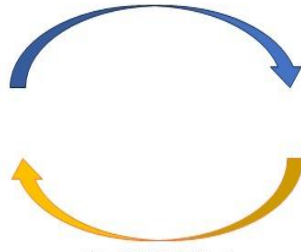
今回の震災により人口減少のさらなる加速が懸念される能登において、震災を乗り越え、さらに地域の活力を維持向上させていくため、関係人口の拡大に向けて必要な施策を検討します。

<内容>

- 能登地域の特性に対応した「二地域居住モデル」の検討
- 官民連携の「連携復興センター」の設置
- 能登農林水産業ボランティアの実施
- 能登への移動時間の短縮 など



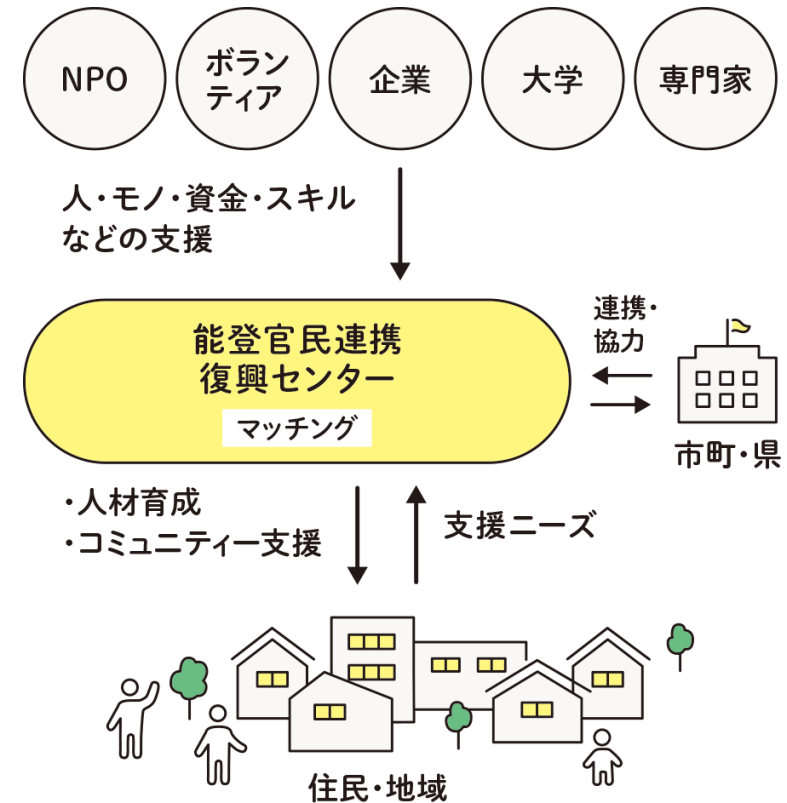
-週末は地方部でゆっくり過ごす
-定期的に能登復興の活動を行う



平日は都市部で
仕事をする



(写真) 石川県観光連盟



創造的復興リーディングプロジェクト

(取組2) 能登サテライトキャンパス構想の推進

今回の地震により、今後、能登が防災や復興などの教育・研究フィールドとして活用されることが見込まれるため、交流人口や関係人口の増加につながるよう取り組みます。

<内容>

- 復興に関わる県内外の大学生等の受入促進
- 金沢大学「能登里山里海未来創造センター」など高等教育機関との連携
- 学生の祭りへの参加促進による伝統文化に触れる学びの場の創出 など



金沢大学能登里山里海SDGsマイスタープログラム

(取組3) 能登に誇りと愛着が持てるような「学び」の場づくり

誰一人取り残さない学びの場を提供するとともに、震災の教訓を生かした創造的復興教育や、ICTの活用、能登地域の各高校の連携・交流などによる質の高い学びを実現します。

また、能登のこどもたちがさまざまな活動に参加でき、能登に住む若い世代が家庭や子育てに夢を持ち喜びが感じられるよう、健やかな子育てや学びを享受できる環境整備を進めます。

<内容>

- ICTを活用した遠隔授業など学習環境整備
- 能登の各高校間の連携・交流による魅力ある学校づくり
- ふるさとの価値を実感し、国内外の生徒との交流や課題解決型学習を進める創造的復興教育の推進
- 能登で子育てがしたいとすることができる環境整備 など



高校生の地域留学推進のための
高校魅力化支援事業（内閣府）



(写真) 能登高校提供

創造的復興リーディングプロジェクト

(取組4) 新たな視点に立ったインフラの強靱化

今回の地震では、道路、電気、上下水道、通信などが壊滅的な被害に見舞われましたが、壊れたインフラの原形復旧に捉われることなく、強くしなやかで使いやすく、サステナブルで新たな価値を創造するインフラの実現を目指し、復旧・復興に取り組みます。

<内容>

- 道路強靱化と里山里海との調和を図り、能登半島沿岸部の回遊性を高める「能登半島絶景海道」の整備 など



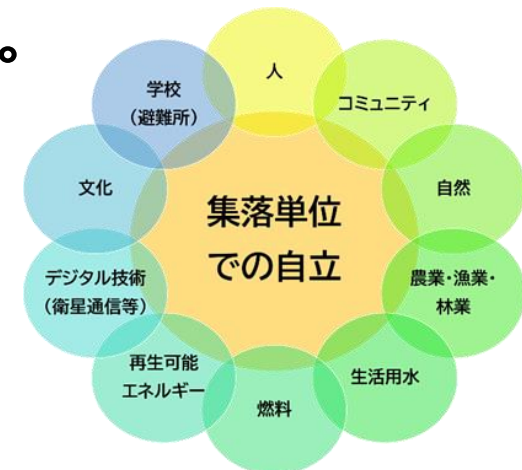
(堂ヶ崎 (珠洲市))

(取組5) 自立・分散型エネルギーの活用などグリーンイノベーションの推進

従前の「線でつながるインフラ」に加え、自立・分散型の「点でまかなうインフラ」も選択肢の一つとするなど、能登におけるグリーンイノベーションに向けた先進的な取り組みを進めます。

<内容>

- 自立分散型のオフグリッド集落の整備
- 住宅や事業所におけるグリーンイノベーション (太陽光発電や蓄電池等の普及)
- 環境負荷の小さい電気自動車によるグリーンドライブの推進 など



創造的復興リーディングプロジェクト

(取組 6) のと里山空港の拠点機能の強化

奥能登の中央部に位置し、能登の各地域ともつながる交通の要衝であるのと里山空港を人・物・資金が行き交う様々な社会機能の中核となる拠点として更なる機能強化を図ります。

<内容>

- 定期便に加え、プライベートジェットの誘致などによる航空交流拠点の機能強化
- 災害時における防災拠点としての機能強化 など



(空港上空からの眺望)



(着陸した自衛隊機)

(取組 7) 利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

地域住民の生活の足として、さらに能登の交通結節点であるのと里山空港・のと鉄道からの二次交通としても重要な地域公共交通のあり方について、市町や交通事業者などと連携し、利用者のニーズを丁寧に汲み取りながら、将来の能登の姿を見据えた、地域公共交通のリ・デザイン（再構築）に向けた協議を行っていきます。

<内容>

- 自家用有償旅客運送やAIオンデマンド型交通、自動運転などの導入 など



(写真) 小松市提供

(小松市で運行されている自動運転バス)

創造的復興リーディングプロジェクト

(取組 8) 奥能登版デジタルライフラインの構築

今回の震災では、デジタル技術が物資の支援や被災者・避難所等の状況把握などで活用されました。こうした経験を踏まえ、国や市町とも連携し、平時から災害時までフェーズフリーで、状況に関わらず活用が可能な「奥能登版デジタルライフライン」の構築を目指します。

<内容>

- 公民館等を活用したモビリティ・ハブの検討
- ドローンを活用した物流配送の確立
- マイナンバーカードの普及促進と公共施設等での新たな利用の検討 など



(ドローンによる支援物資輸送)

(取組 9) 能登の「祭り」の再興

能登の各地域に存在する数多くの祭りは、地域の魅力を高めるとともに、地域への誇りや愛着を育み、能登の絆をつなぐ大きな役割を果たしています。こうした祭りを絶やすことなく未来に継承していくことで、震災を乗り越え、地域コミュニティの再建につながるよう取り組みます。

(写真) 石川県観光連盟

<内容>

- 祭り用具の補修や新たな調達等に対する支援 など



(あばれ祭り (能登町))



(青柏祭 (七尾市))

創造的復興リーディングプロジェクト

(取組10) 震災遺構の地域資源化に向けた取り組み

地震による被害や教訓など後世に伝えるべき歴史的・文化的価値を持つ遺構について、国等による学術的な調査を進めるとともに、地元の意向も踏まえながら、震災遺構の地域資源化に向けて保護・活用方策を検討します。

<内容>

○ジオパークなど震災遺構の地域資源化に向けた調査・検討 など



(黒島漁港 (輪島市))

(取組11) 能登半島国定公園のリ・デザイン

能登の最大の魅力ともいえる壮大な自然環境や農山漁村の原風景は、未来へと継承すべきかけがえない財産です。里山里海に育まれた多様な生物資源の適切な保全を図ることはもとより、地域資源としてその利活用を促進します。

<内容>

○能登半島国定公園の拡張を通じた「30by30」の実現

○「のとSDGsトレイル (仮称)」の創設 など



(禄剛崎 (珠洲市))

(写真) 石川県観光連盟

創造的復興リーディングプロジェクト

(取組12) トキが舞う能登の実現

能登復興のシンボルとして、トキが半世紀ぶりに石川・能登の大空を舞うという夢の実現に向けた取り組みを進め、トキと人が共生する豊かな里山里海を未来の世代へつなげていきます。

<内容>

- トキの放鳥・定着に向けた餌場等の確保・整備
- トキをシンボルとしたブランド化等の地域活性化など



(取組13) 産学官が連携した復興に向けた取り組みの推進

能登をはじめ石川全体の活力の創出を図り、石川の成長に繋げるため、産学官が連携した支援体制を構築し、復興に向けた象徴的なプロジェクトの支援・実施に向け、取り組みます。

<内容>

- 「産学官石川復興プロジェクト会議（仮称）」の設置

